



## 次代の産地や農村社会のリーダーとなりうる人材へ。



### 01 農大祭3年ぶりに開催

コロナ禍により2年間開催することができなかった農大祭ですが、今年度は規模を縮小し開催することができました。

2日間にわたって開催し、1日目は在校生だけでビンゴ大会や軽音愛好会のライブなどを行い、大いに楽しみました。2日目は在校生家族を招いての開催です。模擬店、クイズやライブなどのイベントを行い、みんなに楽しんでもらいました。学生自治会役員を中心に一生懸命みんなで準備を重ね、成功を収めることができました。次年度は新しい役員を中心に、また新しい農大祭を開催したいと思っています。

### 02 いちご高機能高設養液ハウスが完成！

「園芸大国とちぎづくり」の一翼を担える農業経営者育成のため、新しいいちごハウスが建設されました。

このハウスはクラウン冷却装置、暖房機、ウォーターカーテン、ペットヒーターによる保温、炭酸ガス発生装置等を統合制御することによる環境と生育のコントロール、またそれらを管理する環境モニタリング装置による見える化により次世代のいちご栽培のモデルとなっています。このハウスの活用により最先端技術を学生が身に付けられるよう、実習に活用していきます。



## Message



栃木県農業大学校  
校長

新見 清夫

### 「農大生の強み～ほ場から学ぶ～」

本校は創立117年を迎えた歴史のある学校で、優れた農業経営者の育成を目的として、実践的な教育・研修に重きを置き、講義と実習の時間を1対1の割合で行っているのが特徴です。

農業の勉強をしたいとき、教科書や専門書を読んで、写真や動画を見て、農業の知識や技術を学ぶことは他の学校でもできるでしょう。しかし、実習を重視する農業大学校では、ほ場や温室、牛舎で、実際の農作物や家畜に向き合い、自分の目で観察し、自分の手で触り、育てる中から、直に農業の知識や技術を学ぶことができます。こうした経験から身につけた知識や技術は、卒業後の自営就農や雇用就農、農業関連会社で働く際に大いに役に立ちますし、農大生の強み「武器」となります。

48ヘクタールの広大なキャンパスで、ほ場からの学びを経験してみませんか。農業をめざすあなたの夢を農業大学校は応援します。

# 農業生産学部

## 農業総合学科・作物専攻



### 農業の基礎である土地利用型作物の生産技術の習得を目指します。

#### 水稻・畑作に関する最新技術について学んでいます。

水稻専攻では、「とちぎの星」など良食味品種を用いて、高密度播種苗栽培や疎植栽培など低コスト・省力化技術に取り組むほか、ICT技術として水田センサーを活用した水田管理も行っています。

畑作専攻では、小麦、大麦、大豆や落花生などを栽培しており、小麦については製めん適性など加工についても取り組んでいます。

学生はそれぞれ 10a 程度の田畑を担当し、農業機械の操作を含め田畑や作物の管理を主体的に行います。

Pick Up!

#### 水稻



一人一人の学生が担当するほ場（水田）を持ち、実習を通じて生産から出荷まで、目標をもって学んでいます。

#### 畑作



試験区画の調査、コンバインによる収穫作業を協力して行います。

### voice

#### 先輩たちの声

##### 在校生



2年 北原 将梧 さん

#### 「計画を立て研究する！」

私が専攻する水稻では、一人一人が栽培計画を立て、基本的な栽培技術を学び、またICT技術の水田センサーを利用しながら水稻を栽培し、機械による作業や生育・収量及び品質などの調査を行っています。

私は食用米に興味があったので、栃木県で多く栽培されている「コシヒカリ」を低コスト・省力化できる高密度播種苗栽培を用いて、特性の把握、収量・生育について、慣行栽培との違いを研究しました。初めての栽培だったので水田専攻のメンバーで協力しながら行いました。



##### 卒業論文



2年 藍原 希 さん

#### 「落花生「千葉半立」における栽培方法の違いが生育・収量に及ぼす影響」

私が専攻する畑作は、土地利用型作物である麦・大豆を中心に、試験栽培を行っています。一人一人が試験計画を立て、基本的な栽培を学びながら機械による作業や生育・収量及び品質・食味などの調査を行っています。

私は、今回農大で初めての落花生の栽培に挑戦しました。もちろん初めての試みなので落花生の播種や収穫する機械がないので手作業でとても大変でしたが、畑作のメンバーの力を借りて栽培しました。農大は仲間たちとの生活や実習も楽しく、色々な農作物栽培へのチャレンジができる学校です。



「園芸大国とちぎ」をつくる、露地野菜の生産技術の習得を目指します。

露地野菜の栽培に関する最新技術について学んでいます。

露地野菜専攻では機械化一貫体系による玉ねぎ・ねぎの栽培管理技術を中心に実習や講義を行っています。その他、季節の露地野菜の栽培管理を学んだり、環境に優しい栽培方法としてコンパニオンプランツの活用など、新しい栽培方法等の検討を卒業論文の研究で取り組んでいます。

また、地下水位制御により転換畑利用時の給排水が容易な地下灌漑システム水田や育苗時の自動灌水システム施設、乗用管理機などの施設や機械についても学べます。

Pick Up!

春どりねぎ栽培

秋冬野菜



ねぎの機械化一貫体系による栽培を学んでいます。



実習を通じて生産から出荷まで、目標をもって野菜生産を学んでいます。

VOICE

先輩たちの声

在校生



1年 佐藤 風早 さん

「農業を一から学べる！」

私は露地野菜専攻で、たまねぎ、ねぎを中心に露地野菜の栽培方法を学んでいます。実習では、実際に機械を操作して、土寄せ、畝立て、定植、農薬散布を行っています。機械で行う作業は難しく、初めて畝を作った際には曲がってしまいました。しかし先生のアドバイスをいただき、慣れるとコツを掴んでまっすぐに畝を作れるようになりました。

専攻の仲間といういろいろな機械の操作を経験し、日々上達していることを実感しています。これからも農大で農業について、経験なかったことを一から学んでいきたいです。



卒業論文



2年 小森 寛子 さん

「栃木県における露地ねぎの春どり及び初夏どり栽培に適した品種の検討」

栃木県では水田転換畑を活用したねぎの作付が増加傾向にあります。しかし、周年出荷を行うためには、冬の低温遭遇による花芽分化とその後の春季における抽だいが問題となります。

そこで、全くの露地条件下と簡易なビニルトンネルを使った栽培で、抽だいが遅く品質や収量性に優れる春どりと初夏どりに適した品種がないか検討しています。

それぞれの作型に適した品種を明らかにし、作型を組み合わせることで栃木県におけるねぎの周年出荷が行えるように貢献したいと思います。



## 農業生産学部

### 農業総合学科・施設野菜専攻



## 施設野菜に関する基礎知識や最先端の技術習得を目指します。

### いちご・トマトに特化した施設野菜に関する最新技術を学んでいます。

Pick up!

いちご

トマト

本県の重要品目であるいちご・トマト等の施設野菜について、実習と講義を通して栽培技術や経営を学んでいます。

いちごは「とちおとめ」「とちあいか」「スカイベリー」等、本県の主要品種を、土耕および高設の養液栽培装置で栽培しています。

トマトではロックウール培地による養液栽培や、温度・湿度・炭酸ガス濃度を遠隔制御できる装置を備えた高軒高ハウスなど、次世代の農業を担う技術・経営を学んでいます。



いちごの収穫が始まりました。果実を傷めないよう、朝早めに収穫を始めています。



トマト高軒高ハウスでの収穫調査の様子です。計画通りに作付けができ、生育も順調です。

## 先輩たちの声

voice

在校生



1年 斎藤 慶太 さん

### 「後継者を志して！」

私は、普通高校から入学したいちご農家の後継者です。家の手伝いから知っているものもありましたが、専門の授業や実験、トラクターの免許取得など多くのことを学んでいます。卒業論文には新設された高機能ハウスにて品種差による収量、品質、土壌特性などを調査しています。他のハウスや我が家の果実と比べて研究しています。入学後、サークル活動でバレーボールにはまりました！家族と共に、家や地域でも活躍できるような後継者になりたいと思います



卒業論文

### トマト栽培における摘葉枚数の違いが生育・収量・品質に及ぼす影響



2年 菅沼 未奈 さん



私は、トマト栽培において、摘葉枚数の多少が果実の品質や収量・生育に影響があるのではないかと卒業論文のテーマにしました。調査ハウスは低軒高ロックウールハウスを使用しました。結果として生育については極端な差がなく、収量については摘葉枚数が少ない方が、収量が多くなることがわかりました。今回は低軒高ハウスでの調査でしたが、今後は高軒高ハウスにおいて調査をしてみたいです。

農業生産学部

農業総合学科・花き専攻

## 切り花や鉢花などの基礎知識や栽培技術の習得を目指します。

### 花き類の品種に応じた栽培の基礎から学んでいます。

カーネーション、スプレーぎくなどの切り花、シクラメン、ハイドランジアなどの鉢もの、パンジーなどの花壇用苗ものを中心として、様々な花き類についての生理生態や生育ステージに応じた管理方法を学びます。

学生が興味を持った種類や品種の花き類も卒論課題に取上げて学んでいます。

Pick Up!

### いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会記念

一輪の小さな花が集まれば、心に感動を与える大きな花となります。  
一人一人の心に夢の花を咲かせ、未来の花を咲かせましょう。

第 77 回国民体育大会(10/1～10/11)



「いちごの果実」と学生・職員

第 22 回全国障害者スポーツ大会(10/29～10/31)



「白馬に引かれたいちごの馬車」

第77回国民体育大会は、昭和55年に開催された栃の菓国体以来42年ぶりの開催となり、第22回全国障害者スポーツ大会は国内最大の障害者スポーツの祭典であり、栃木県では初めての開催となりました。花き専攻では、全国から来県する選手の方々と大会に関わる人々が一期一会の出会いや体験を大切に、いちごのように赤く実る大会になるように収穫量全国一位のいちごをモチーフにデザインし、ニチニチソウ、ペゴニア、マリーゴールドなど10種類、38品種の種を約2万粒播種し、約半年間かけて準備しました。

花苗の播種から育苗、開花までは、夏の猛暑期間中の管理となり大変でしたが、縦3.6m×横5.3mの大飾花台へ、花苗2,400鉢を2回(9/28、10/24)、「いちごの果実」や「白馬に引かれたいちごの馬車」をイメージしたデザインで飾り付けを行い、大会に花を添えることができました。

## VOICE

### 先輩たちの声

在校生



1年 藤田 ミレナ さん

### 「花の授業で得られたこと」

私は、高校の授業をとおして学んだ花の知識を更に深めたいと思い農大の花き専攻に入学しました。農大では、座学と実習をバランスよく受けることができます。座学では、花の特性や栽培方法を学び、実習では、授業で習った知識を活かしながら花の栽培管理を行っています。他にも、土づくり、施設や機械の点検など花を栽培していく上で重要な事を細かく教えてくれます。

卒業論文では、ランキュラスを取り上げ、栽培を行いながら疑問に思ったことを課題にしようと考えています。



卒業論文



2年 大塚 億人 さん

### 「培養土の違いがマリーゴールドの生育に及ぼす影響について」

私は卒業論文で「培養土の違いがマリーゴールドの生育に及ぼす影響について」調査を行いました。私の実家は園芸用土販売業を営んでいます。自社製造で園芸用の培養土を販売していますが、その培養土を改良することで実家の経営改善につながると考えたからです。そこで、培養土のpH、EC、物理性などを調査し、ECや気相率を改善するための用土配合を行い、それぞれの用土でマリーゴールドを栽培してみました。その結果、実家の培養土よりも配合用土の生育が良くなりました。今後はコストも考慮に入れて、さらに検討していきたいと思っています。



## 農業生産学部

### 農業総合学科・果樹専攻



## 果樹の基礎知識や先端技術を習得した、「即戦力」の担い手を目指します。

根圏制御栽培やグローバル GAP など果樹に関する最新技術も学んでいます。

県の主要品目であるなし・ぶどうをはじめ、りんご・くり・キウイフルーツ・かき・ブルーベリーなどの果樹について、時期に応じた管理作業を学ぶことができます。

また、県農試が開発した「盛土式根圏制御栽培」について、なし・ぶどう・ももで実習できるなど、最新の栽培技術を体験することが可能です。

さらに、国際基準である「グローバルGAP」の認証を「日本なし」で取得しており、食品安全・労働安全・環境保全に配慮した生産工程管理についても学ぶことができます。

Pick Up!

### 基本技術



なしでは「4本主枝棚仕立て栽培」を、ぶどうでは「雨よけと露地」「長梢と短梢」「種ありと種なし」など、栽培方法の違いを理解し、地植え栽培の基本技術の習得を目指します。

### 根圏制御栽培



なし・ぶどう・ももにおいて、根圏制御栽培を実習し作業を経験することで、その特徴やメリット・デメリット等について理解を深めることができます。

## 先輩たちの声

### VOICE

#### 在校生



1年 柴原 優 さん

### 「様々な果物の栽培を学べます」

果樹園では様々な品目を栽培しており、それぞれの栽培管理を学んでいます。管理作業は品目ごとに異なるので覚えることが多く大変ですが、高校では扱ったことのない果樹も経験できて面白いです。また、果樹専攻では学生みんなで一緒に作業する実習が多く、ほ場管理作業などを協力してやっています。なしやりんごの受粉や摘果、ぶどうの雨よけビニール張りなど、みんなで力を合わせて取り組んでいます。根圏制御栽培など最新の栽培技術も体験でき、充実した実習ができます。



#### 卒業論文



2年 吉沢 美咲 さん

### 「幸水」における多収栽培の実証

栃木県は全国3位のなしの産地ですが、老木化等による収量性の低下などの課題や、なしの価格低迷など、多収栽培に対する期待が高まっています。そこで、開花から成熟までの期間が短い早生品種の「幸水」について、着果数を増やして多収栽培ができないか、実証試験を行っています。

せん定、授粉、摘果、新梢管理などの試験樹の管理はもちろん、樹の生育や果実品質などに違いがあるかの調査も、全て自分で計画して行うので、大変ですが良い勉強になっていると思います。



農業生産学部

畜産学科

## 畜産の基礎知識や先端技術を習得した、「即戦力」の担い手を目指します。

畜産に関する基礎知識やICTを活用した先端技術を学んでいます。

Pick up!

酪農

肉用牛

学生は、酪農及び肉用牛専攻に分かれ、講義・専攻実習や毎日の農場管理実習を通して、乳用牛及び肉用牛の基本的な飼養管理（飼料給与・搾乳・衛生管理等）や飼料作物の栽培・調製技術、家畜人工授精師の資格取得など、畜産経営に必要な知識や実践的な技術について、幅広く学んでいます。

平成30年度に新設した「ドリーム牛舎」ではICT（情報通信技術）機器を活用した先端の飼養管理を実践しています。



酪農専攻では、フリーストール牛舎で搾乳牛を飼養、ミルキングパーラーでの搾乳をメインに、「哺乳牛からベテラン牛」まで、アニマルウェルフェアを心がけた管理を学んでいます。



肉用牛専攻では、ICT技術による繁殖管理や体重測定データに基づく飼料給与、放牧の活用などアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理を学んでいます。

voice

先輩たちの声

### 「農大で自分探ししています。」

在校生



1年 荒木 麻衣 さん

私は、高校で牛の飼養管理の楽しさを知り、もっと技術や知識を高めたいと思い農大に入学しました。農大の実習では搾乳をしたり、生徒が機械に乗って除糞をしたりするなど高校で体験したことがないことばかりで慣れるまで大変でしたが、今ではとても楽しく実習することができています。

また、農大では、家畜人工授精師などの牛に関わる資格やトラクターやけん引などの機械の免許も取ることができます。将来への不安はありますが、農大での実習を楽しみながら自分がやりたいことを見つけ、実現できるように努力していきたいです。



卒業論文



2年 鈴木 瑞葵 さん

### 「簡単にできる和牛子牛の体重推定について」

子牛の体重は発育状況などの成長過程や肥育農家の求めるニーズに合った素牛を供給するために、適正に把握する必要があります。しかし、一般的に農家では、学校や試験研究機関のように子牛の体重を測定する体重計がありません。導入するには高価であり、測定するにも牛を牛房から移動させるなどの手間がかかります。

そこで、経費をかけずに手軽に測定することはできないかと考え、熊本県農業研究センターの試験報告を参考に、100円ショップで購入したメジャーを用いて、胸囲の測定値から体重を推定する方法について調査しています。

# 農業経営学部

## いちご学科



### 次代の「いちご王国とちぎ」を牽引する、いちご経営者を目指します。

いちごに特化した最新技術や経営について学んでいます。

Pick up!

1 学年

2 学年

いちご栽培に関わる知識・技術の習得に加え、企業的な視点から農業経営を実践するため、経営管理能力の習得に向けた講義・演習も行います。その他、栽培や経営に関する課題について議論するゼミなど濃密な授業を実施します。

生産量全国 1 位を誇る栃木のいちご生産を担う経営者を育成することが目的で、優れた技術と高い経営能力を持ち、地域のリーダーとなりうる人材の育成を目指します。



1 学年では、校内農場において、いちご専門実習を行い、育苗から収穫までの栽培管理や選別・調整、栽培施設の維持管理について学びます。また、座学では、いちごの生理生態のほか、経営者論、従業員の労務管理などを学びます。



2 学年では、県内の先進的経営体において現地実習を通年で実施し、就業後の実践力を養います。また、ゼミや演習を主体とした座学により、農業者、経営者としての資質を高めていきます。

### 先輩たちの声

#### VOICE

#### 「いちご経営者になる」

在校生



1年 谷川 達也 さん これからも経営について学び、立派な経営者になりたいです。

私はいちご経営者になるため、いちごについて学んでいます。いちご学科では、いちごの管理、収穫、バック詰め、出荷と、一連の作業を実習で学ぶことができます。また、現地実習では、県内の先進的経営体において、より実践的な作業等を学ぶことができます。校内農場では、当番制で学生が毎日交代でいちごの管理を行っています。土日も当番日は登校する必要がありますが、経営が始まった時のことを考えると自分のためになると思います。管理に努めています。



在校生



2年 黒子 綾太 さん

#### 「ともに学びともに進む」

私はいちご学科で、いちごの基礎知識や栽培管理、外部講師による経営学やリーダーシップ論など、いちご経営に必要な知識を学んでいます。授業を受けていればいちご栽培の一連の流れやいちごの生理生態が分かってくると思いますが、それだけでは不十分なので自分で積極的に勉強する必要があります。また、2年生になったら本格的に就業準備が始まり忙しくなるため、1年生のうちにいちごに関する本を読み込んでおくことをお勧めします。

様々な世界情勢で新規就農が難しくなっていますが、いちご学科2年生6人で仲良く、励まし合いながら活動しています。



### 学生自治会長



2年 大森 左貴 さん

## 「自分たちで企画し、楽しい学校生活にしよう！」

当校には、学生自治会があります。自治会役員は選挙によって選ばれ、学校生活を充実したものにするために様々なイベントを企画運営しています。春と秋にはスポーツ大会を行い、学生同士の親睦を深めます。11月には農大祭を開催し、学生が育てた農産物の販売やサークルの展示などを行い、学校のPR活動をしています。またサークル活動も支援しており、既存サークルへの参加はもちろん、自分たちで新しいサークルを立ち上げることもできます。今後も学生が楽しめる企画を考えていきたいと思っています。

### 学生自治会 Photo Album



清き一票を！



自治会役員選挙も自分たちで運営



スポーツ大会などのイベントの企画・運営

## 「感染対策しながらみんなで工夫して楽しい寮生活を送っています！」

「寮生会」とは、みんなが快適な生活を送れるよう運営している学生組織です。寮生全員の意見をできる限り運営に反映できるように、みんなの声を集め、相談しながら改善活動を行っています。コロナによる制限は今も続いています。そんな中でも学科の枠を越えて助け合い、友好を深められる寮生活は、とても貴重な時間だと思います。

### 寮生会長



1年 直井 駿佑 さん



女子寮、ロビーに集まって～！はい、チーズ！



男子寮集合！これから大掃除なのです！

## とちぎ農業未来塾

Uターン、Iターンなどにより、栃木県内で農業を始めたいと考えている方が、円滑に就農できるよう、基礎的な農業経営の知識や作物の栽培技術などを研修します。

「とちぎ農業未来塾」は、就農準備基礎研修と専門研修合わせて81名でスタートしました。各研修とも、講義や実習、現地視察等で構成されており、各種作物の栽培技術や農業経営、農産物販売等のための基礎的な知識を学んでいます。

週1回のコースである就農準備基礎研修では、夏野菜と秋冬野菜に分けて計13種類の作物の栽培と出荷調製を研修しています。また、より実践的な内容を学ぶ就農準備専門研修（いちご、施設野菜、露地野菜、果樹）では、各専攻に分かれて今年4月からの就農に向け、全員が精力的に研修に励んでいます。



## とちぎ農業ビジネススクール

経営の高度化を目指す意欲ある農業者を対象に、経営改革に必要な経営スキルを学びます。

「とちぎ農業ビジネススクール」は、経営の高度化を目指す意欲ある農業者の方を対象とした講座で、これまでも地域農業の核となる多くの農業経営者を輩出しています。

今年度は、県内各地から6名が受講しています。このスクールでは、経営者として必要な経営スキルや意識改革を行うために、セミナー及び受講者同士の討論を通じ自分の目指す経営改革の方向を明確化するとともに、経営の個別課題を整理・分析し、実効性のある5カ年の「経営改革プラン」を策定していきます。本県農業をリードするような先進的な農業経営者となることが期待されます。



## Message

### 「農業（食）を支える」

農業は食料生産（人を潤す花きを含む）です。みんなが安心して食する事が出来るのは多くの生産者がいるからです。しかし、国内の食料自給率は37%でかなり厳しい数字です。食料安全保障は最重要テーマです。増産がテーマですから農業は成長産業だと思えます。

本校に集う皆さんは、農業（食）を支える大切な人材です。本校には高度な教育システムと資源があります。伝統があります。多くの同窓生がおります。天の利、地の利、人の利の三つが揃っています。自信を持って農業（食）に取り組んで下さい。「私が農業（食）を支える」の気概を持って、本校で学んで下さい。みんながあなたの活躍を待っています。



栃木県農業大学校同窓会長 杉山 忠雄

（編集後記：みんなの「食」を支える農業は、とてもやりがいのある職業です。農業を志す学生の入学を、心よりお待ちしております！）